

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等の 名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人あたりの 在籍学生数	備考
	学科 長	副学科長	主任	一般 専任	計	基準 数	うち 理 学療法 士又は 作業療 法 士 数	助手			
理学療法学科 (昼間部)	1 人	1 人	1 人	4 人	7 人	6 人	7 人	0 人	61 人	18.5 人	
理学療法学科 (夜間部)	1 人	0 人	1 人	5 人	7 人	6 人	7 人	0 人	61 人	15.0 人	
計	2 人	1 人	2 人	9 人	14 人	12 人	14 人	0 人	122 人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授で ける医師等の専門家が配置されている。	3
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の 知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以 上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以 上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・専門基礎・専門)	指定規則教育内容	相当授業科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎	科学的思考の基盤人間と生活・社会の理解	医療倫理学	15	吉本陵	兼任
		心理学	15	安田傑	兼任
		表現論	15	久保明裕	専任
		基礎ゼミナールⅠ	15	井口祥平、木下拓真、清水浩之、岡林豊、市田修一、久保明裕、相星裕生、藤井隆太、松村明保、大井直樹、木村彩子	専任
		基礎ゼミナールⅡ	15	井口祥平、木下拓真、清水浩之、岡林豊、市田修一、久保明裕、相星裕生、藤井隆太、松村明保、大井直樹、木村彩子	専任
		栄養学	15	酒井恵	兼任
		統計学	15	辰巳信平	兼任
		英語	15	土屋素明	兼任
		医学英語	15	土屋素明	兼任
		健康学概論	15	岡林豊	専任
専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	15	清水浩之	専任
		解剖学Ⅱ	15	宇留島隼人	兼任
		解剖学Ⅲ	15	木山博資	兼任
		解剖学演習	15	藤井隆太	専任
		生理学Ⅰ	15	井口祥平	専任
		生理学Ⅱ	15	井口祥平	専任
		生理学Ⅲ	15	井口祥平	専任
		運動生理学	15	藤田誠也	兼任
		体表解剖学	15	花崎太一	兼任
		運動学Ⅰ	15	岡林豊	専任
		運動学Ⅱ	15	久保明裕	専任
		人間発達学(昼)	15	堀田祥司	兼任
		人間発達学(夜)	15	竹下昌宏	兼任
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	15	田村泰久	兼任
		臨床心理学	15	安田傑	兼任

		一般臨床医学	15	高折洋	兼任
		内科学Ⅰ(昼)	15	神前格	兼任
		内科学Ⅰ(夜)	15	伊藤泰司	兼任
		内科学Ⅱ(昼)	15	神前格	兼任
		内科学Ⅱ(夜)	15	伊藤泰司	兼任
		整形外科Ⅰ	15	津田晃佑	兼任
		整形外科Ⅱ	15	津田 晃佑	兼任
		神経内科学Ⅰ	15	榎木英介	兼任
		神経内科学Ⅱ	15	榎木英介	兼任
		脳神経外科学	15	山田昌稔	兼任
		脳神経外科学	15	山本 暁大、萩岡 起也	兼任
		精神医学	15	巴隆弘	兼任
		リハビリテーション 医学	15	清水浩之	専任
		薬理学	15	佐藤公彦	兼任
		臨床検査・画像診 断学	15	川瀬 和大、荒瀬 友岳、 大隅 彰憲、今藤 広大	兼任
		救急救命医学	15	田村 優貴、材木 力斗	兼任
		小児科学	15	神前格	兼任
		小児科学	15	篠原康夫	兼任
	保健医療福祉とリハビリテーション の理念	リハビリテーション 概論	15	市田修一	専任
		保健医療福祉制 度論	15	竹元志保	兼任
		理学療法概論	15	市田修一	専任
		ケアマネジメント 論	15	渡辺健太	兼任
専門	基礎理学療法学	理学療法研究法 Ⅰ	15	井口祥平、木下拓真、清水浩之、岡林豊、 市田修一、久保明裕、相星裕生、藤井隆太、 松村明保、大井直樹、木村彩子	専任
		理学療法研究法 Ⅱ	15	井口祥平、木下拓真、清水浩之、岡林豊、 市田修一、久保明裕、相星裕生、藤井隆太、 松村明保、大井直樹、木村彩子	専任
		理学療法研究法 Ⅲ	15	井口祥平、木下拓真、清水浩之、岡林豊、 市田修一、久保明裕、相星裕生、藤井隆太、 松村明保、大井直樹、木村彩子	専任
		理学療法研究法 Ⅳ	15	井口祥平、木下拓真、清水浩之、岡林豊、 市田修一、久保明裕、相星裕生、藤井隆太、 松村明保、大井直樹、木村彩子	専任
		理学療法基礎実 習	15	井口祥平、木下拓真、清水浩之、岡林豊、 市田修一、久保明裕、相星裕生、藤井隆太、	専任

				松村明保、大井直樹、木村彩子	
		臨床運動学	15	森 憲一、森下 健、塩見 太一朗、 高橋 郁美	兼任
		理学療法特論Ⅰ	15	井口祥平、木下拓真、清水浩之、岡林豊、 市田修一、久保明裕、相星裕生、藤井隆太、 松村明保、大井直樹、木村彩子	専任
		理学療法特論Ⅱ	60	市田修一、相星裕生、山中善嗣、安村亮	専任
	理学療法管理学	理学療法管理学	15	島樹	兼任
		理学療法教育学	15	上村太郎	兼任
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	15	市田修一、松村明保	専任
		理学療法評価学Ⅱ	15	岡林豊、久保 明裕、木村 彩子	専任
		理学療法評価学Ⅲ	15	松村明保、木村彩子	専任
		理学療法評価学 演習	15	相星裕生	専任
		理学療法評価学 実習	15	藤井隆太	専任
		クリニカルリーズニングⅠ	15	木下拓真	専任
		クリニカルリーズニングⅡ	15	木下拓真	専任
		姿勢・動作分析学	15	久保明裕	専任
	理学療法治療学	物理療法Ⅰ	15	大井直樹	専任
		物理療法Ⅱ	15	大井直樹	専任
		運動療法Ⅰ	15	井口奈保美	専任
		運動療法Ⅱ	15	井口奈保美	専任
		日常生活活動Ⅰ	15	松村明保	専任
		日常生活活動Ⅱ	15	松村明保	専任
		義肢学	15	瀬野大輔	兼任
		装具学	15	瀬野大輔	兼任
		運動器系理学療 法治療学	15	井口 奈保美、東山 学史	専任、兼任
		運動器系理学療 法治療学実習	15	井口 奈保美、東山 学史	専任、兼任
		中枢神経系理学 療法治療学	15	相星裕生	専任
		中枢神経系理学 療法治療学実習	15	相星裕生	専任

		小児系理学療法 治療学	15	上杉雅之	兼任
		呼吸器系理学療法 治療学	15	永井佑典、荒瀬友岳	兼任
		代謝循環器系理 学療法治療学 (昼)	15	梅田陽平	兼任
		代謝循環器系理 学療法治療学 (夜)	15	眞鍋周志	兼任
		神経・筋疾患系理 学療法治療学	15	久我宜正、喜多頼広、荻野悟	兼任
		脊髄損傷理学療法 治療学	15	肥塚二美子、宮垣さやか、大向優貴	兼任
		老年期理学療法 学治療学	15	佐藤忠輝、中尾 純哉	兼任
		理学療法治療学 特講Ⅰ	15	藤井隆太	専任
		理学療法治療学 特講Ⅱ	15	花崎 太一、田淵 成臣、酒井 宏介、 東山 学史、是澤 克彦、本田 文歩、森下 健、 塩見 太一郎 高橋 郁美、西端 彩奈、 岩根弘人、篠田夏穂	兼任
		理学療法治療学 特講Ⅲ	15	森憲一、春本千保子	兼任
	地域理学療法学	福祉住環境論	15	谷口昌宏	兼任
		レクリエーション	15	木下拓真	専任
		地域理学療法	15	木村彩子	専任
	臨床実習	見学体験実習	45	岡林豊、相星裕生、井口祥平、井口奈保美、 市田修一、大井直樹、木下拓真、木村彩子、 久保明裕、清水浩之、藤井隆太、松村明保、 木村彩子	専任
		臨床評価実習	225	岡林豊、相星裕生、井口祥平、井口奈保美、 市田修一、大井直樹、木下拓真、木村彩子、 久保明裕、清水浩之、藤井隆太、松村明保、 木村彩子	専任
		臨床総合実習	810	岡林豊、相星裕生、井口祥平、井口奈保美、 市田修一、大井直樹、木下拓真、木村彩子、 久保明裕、清水浩之、藤井隆太、松村明保、 木村彩子	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。 または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
○	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報:臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時間を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
理学療法基礎実習	1年後期	リハビリテーション概論	1年前期
		理学療法概論	2 年後期
見学体験実習	2年後期	リハビリテーション医学	1年後期
		理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	1年後期、2年前期・後期
		理学療法評価学演習・実習	2年前期・後期
臨床評価実習	3年後期	クリニカルリーズニングⅠ	3年前期
		クリニカルリーズニングⅡ	3年後期
総合臨床実習	4年前期	運動器系理学療法治療学	3年前期
		中枢神経系理学療法治療学	3年前期
		小児系理学療法治療学	3年前期
		呼吸器系理学療法治療学	3年後期
		代謝循環器系理学療法治療学	3年後期
		神経・筋疾患系理学療法治療学	3年後期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
○	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点検評価委員会
委員名(委員長)	池尾忠思(校長)
組織の開催頻度	月に一度
組織の取り組み内容	学科レベルの自己点検を集約、精査
	当該委員会の自己点検は毎年、第三者評価(学校関係者評価委員会)を受けている
自己点検・評価結果の公表	HPで公表(URL: <a href="https://www.riseisha.ac.jp/disclosure/">https://www.riseisha.ac.jp/disclosure/</a> )

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教務担当者会議
	委員構成等	教務担当、学科長、副学科長
	改善の仕組みの実際	前年度のカリキュラム進行、授業評価を加味し、各科目の到達目標の検証とシラバス内容の検証を行なっている。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

【教務関連】

専任教員の専門性に応じた研鑽が適切に行えるように、学科システムの構築・運用をすすめる。

【臨床実習関連】

R7 年度より臨床実習支援システムを導入している。システムを通して、臨床実習地ならびに指導者との連携を今以上に円滑化していく。なお、臨床実習におけるハラスメント対策は、学生一人に対して相談窓口として専任教員が一人ついて対応をしている。ハラスメント防止のための体制を整え、組織的にハラスメント防止の取り組みをすすめる。

【自己点検・評価】

自己点検・評価体制は整っているものの、点検・評価結果に対する具体的な対策の実行は不十分である。学科・学校レベルで組織体制の見直し、改善を推進していく。